

新型コロナウイルス感染症について ver.14

R2/12/25 院長

★再開について

第1波の2月～5月にかけて情報発信してきましたが、今回再開を致します。理由は現状を非常に危惧するからです。第1波の時はまだコロナに関して分からないことが多く、相手を怖がりすぎていましたがこれは仕方のないことですし怖がって当然です。コロナに関してかなり分かってきていて情報があふているにも関わらず、現状は怖がらなさすぎています。正しい情報を正しく理解し、正しく怖がるのが今一番求められています。今回はコロナの症状と対応についてお伝えします。

★発症時の症状(IASR Vol.41 p220-221)

国立感染症研究所がCOVID-19入院患者396例のデータを集計したものです。

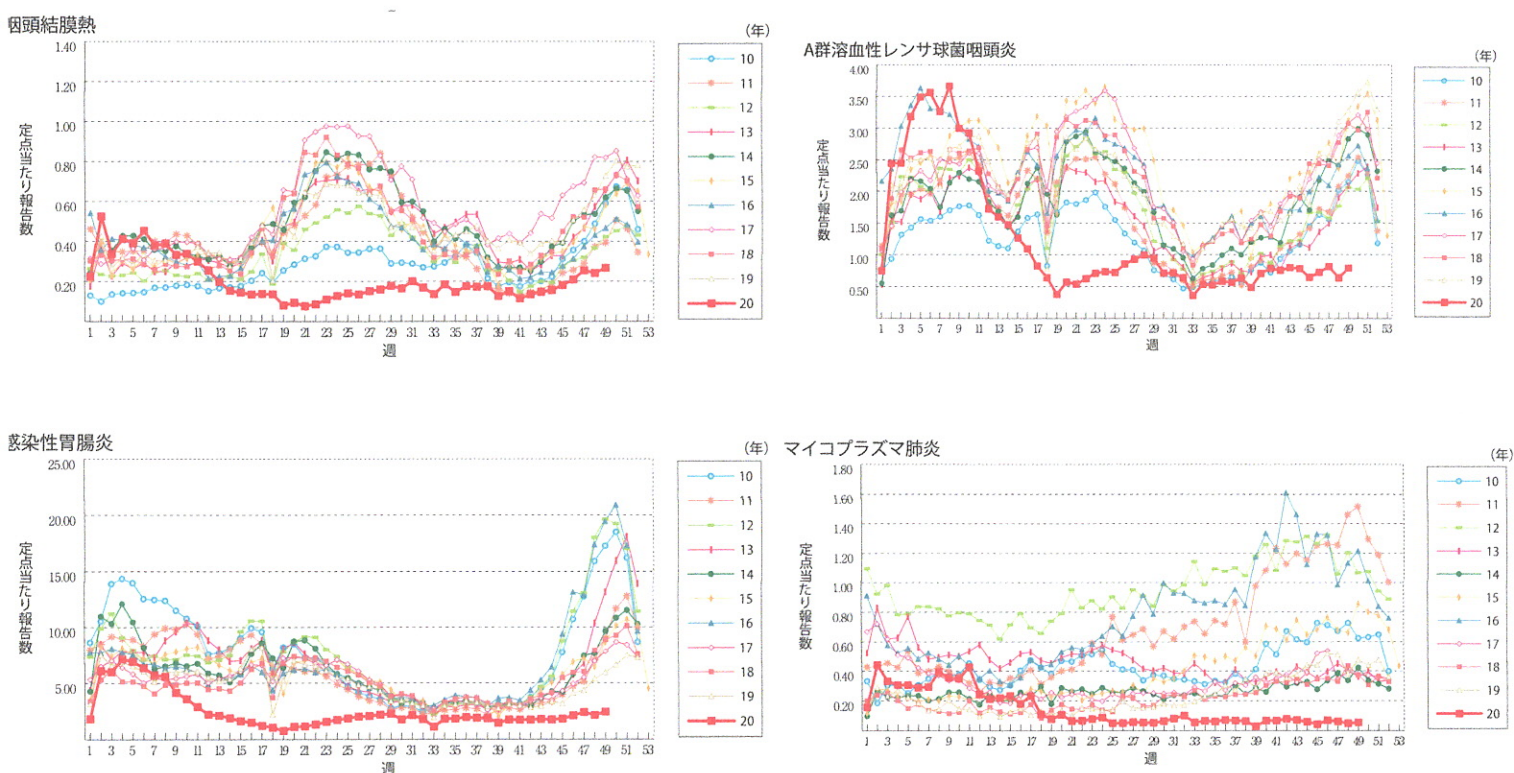
症状	人数(%)	症状	人数(%)
発熱	217(55%)	腹痛	2(1%)
呼吸器症状	141(36%)	倦怠感	57(14%)
咳嗽	94(24%)	頭痛	35(9%)
息切れ・呼吸苦	23(6%)	鼻汁	21(5%)
咽頭痛	56(14%)	味覚異常	21(5%)
消化器症状	26(7%)	嗅覚異常	21(5%)
下痢	13(3%)	関節痛	15(4%)
食欲不振	8(2%)	筋肉痛	7(2%)
悪心・嘔吐	5(1%)	意識障害	0(0%)

発熱は約半分の人にしか認めていませんし、呼吸器症状も1/3にしかなく、有名な味覚障害に至っては5%と非常に稀であることがわかります。

結論的には“コロナに特徴的な症状はなく、普通のかぜと見分けはつかない”ということです。熱や咳や味覚障害がないから大丈夫とは全然言えないということです。コロナ感染者の約80%は軽い風邪症状で終わります。普通の軽いかぜだと思っていて普通に生活してしまうと、万が一コロナであった場合知らない間に多くの人に感染させてしまうのです。

★風邪症状出現時の対応

微熱や咳など何らかの風邪症状が出たら、“コロナかもしれない”とまず思って下さい。そして速やかにコロナの検査（抗原検査やPCR検査）を受けて下さい。下図のようにコロナの影響で今年は他のかぜが例年と比べると激減しています。インフルエンザも現時点では国内での発生はたった300人程度しかありません。



第1波の時はPCR検査しかなく、検査できる量がかなり限られていたので重症者優先となり、軽症者まで検査が回りませんでしたでしたが現在は様々な医療機関で検査が迅速に可能になっています。検査を躊躇する必要はありません。積極的に是非検査を受けて下さい。それが皆さんの大切な人を守ることになるのです。

検査が陰性であっても決して油断はできません。次回検査についてはお話ししますが、検査は100%ではありません。PCR検査も3回以上やって初めて陽性となることはよくあることです。理想は風邪症状でて検査陰性であっても10日間は自宅療養することです。また、検査を受けることができない場合の対応も同じです。

”風邪をひいたら、コロナを疑え！”